

保育所等自己評価 公表用資料

ひなぎく保育園 2025年度 年2回の評価結果

職員による年2回の自己評価を比較し、保育の現状と改善方針をまとめました。全体平均はほぼ横ばいで、保護者支援は両回とも最も高い領域でした。行事や保育計画の評価は上昇していますが、こどもの意思を尊重する関わりや、行事の進め方には引き続き課題があります。

1 実施概要と全体結果

項目	第1回	第2回
回答記録の期間	2025年9月1日～15日	2026年2月3日～25日
回答者数	17名	16名
評価対象	共通の38項目	共通の38項目
有効回答数（延べ）	644件	603件
全体平均（換算値）	3.12点	3.13点
S・A・Bの割合	82.5%	82.3%

両回で回答人数が異なるため、同一職員の変化ではなく各回の園全体の傾向を比較しています。全体平均の差は+0.01点、S・A・Bの割合の差は-0.2ポイントです。

2 領域別の比較

評価領域	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)	S・A・Bの割合 第1回 → 第2回
保育理念・方針	3.24	3.10	-0.15	84.9% → 80.4%
保育計画・実践	2.91	3.07	+0.16	76.5% → 81.2%
こどもの権利・主体性	3.24	3.15	-0.09	88.2% → 83.9%
職員としての資質	2.93	3.03	+0.09	76.5% → 80.0%
保護者支援	3.44	3.38	-0.06	93.3% → 88.1%
行事	2.76	3.02	+0.27	65.3% → 77.1%

集計の見方

Sは他の職員の模範となる実践、Aは自信を持ってできている、Bは自身ではできている、Cは大幅な改善が必要、Dはできているかわからない、Eは考えたことがない、という自己評価です。

比較の参考としてS=5、A=4、B=3、C=2、D=1、E=0に換算しました。平均点は有効回答の合計点を回答数で割った値です。認識の違いも含む自己評価であり、保育の質を客観的に測定した点数ではありません。

評価基準に定義のないF（第1回2件、第2回5件）は平均点・割合の分母から除外しました。空白行も除外しています。割合は有効回答のうちS・A・Bの占める割合です。差は丸める前の値から計算しています。

3 比較から見られた強みと課題

保護者支援は両回を通じた強み

領域平均は3.44点から3.38点となり、両回とも最も高い評価でした。笑顔での対応や管理職への相談は第2回も3.75点でした。一方、共感と傾聴による相談対応は3.59点から3.19点となっており、家庭への丁寧な関わりを継続して振り返ります。

行事と保育計画は上昇しつつも改善を継続

行事は2.76点から3.02点、保育計画・実践は2.91点から3.07点に上昇しました。ただし、第2回も指導計画と成長の見通しは各2.81点です。行事の種類・回数、ねらいの共有、振り返りを次の実践につなげることを重視します。

こどもの意思を尊重する関わりを再確認

保育理念・方針は3.24点から3.10点、こどもの権利・主体性は3.24点から3.15点でした。特にルールや決まりの説明は3.24点から3.00点、S・A・Bの割合は88.2%から68.8%となり、説明の仕方やこどもの納得を確かめる関わりを見直します。

4 自由記述から見られた傾向

第1回は、こどもが遊びや活動を選べる環境づくり、言葉かけの見直しが挙げられました。一方、主体性を尊重する保育と行事の練習との両立、準備や打ち合わせの不足に課題を感じる意見がありました。

第2回は、こどもの思いを聞くことや、職員同士で相談し助言を生かすことへの変化を感じた意見がありました。一方、忙しさによる余裕の不足や言葉かけ、行事のねらいと保護者への説明には継続した課題が示されました。

5 今後の改善方針

- 1 指導計画と振り返りを簡素化し、一人ひとりの育ちや支援が必要な場면을職員間で共有します。
- 2 行事のねらい、こどもの主体性、職員の負担、保護者への説明を事前に確認し、実施後の振り返りにつなげます。
- 3 参加・不参加の意思や選択を尊重し、ルールを説明する場面と言葉かけを職員間で振り返ります。
- 4 家庭ごとの事情や相談内容を一人で抱えず、管理職や専門職と連携して支援します。

参考資料 評価項目の概要と比較 1

評価項目38項目を要約しました。平均点はS=5～E=0の換算値で、差は第2回から第1回を引いた値です。

保育理念・方針

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	一人ひとりの事情と意思の受容	3.47	3.25	-0.22
2	安全で安心できる温かな保育	3.47	3.38	-0.10
3	家族の絆を深める保育	2.88	2.94	+0.06
4	園の保育方針に沿った実践	3.24	3.06	-0.17
5	こどもの可能性を広げる保育	3.00	2.88	-0.12
6	のびのびと過ごせる保育	3.41	3.19	-0.22
7	主体性を育む保育	3.24	3.00	-0.24

保育計画・実践

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	一人ひとりに合った指導計画	2.76	2.81	+0.05
2	適切な成長の見通し	2.71	2.81	+0.11
3	環境を通した保育	2.88	3.19	+0.31
4	援助と支援を重視した関わり	3.06	3.25	+0.19
5	計画と振り返りによる改善	2.59	2.88	+0.29
6	やってみたい気持ちの尊重	3.18	3.25	+0.07
7	自己肯定感を育む言葉かけ	3.18	3.31	+0.14

こどもの権利・主体性

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	こどもを権利の主体とする理解	3.47	3.44	-0.03
2	意見を表す権利の尊重	3.12	3.06	-0.06
3	こどもの最善の利益の優先	3.24	3.12	-0.11
4	対等な存在としての尊重	3.29	3.19	-0.11
5	保育方法や伝え方の見直し	3.00	3.00	+0.00
6	参加と不参加を選ぶ権利の理解	3.35	3.25	-0.10
7	ルールや決まりの説明	3.24	3.00	-0.24

有効回答数：第1回は各17件（行事②③は16件）。第2回は各16件（職員としての資質③④、保護者支援③④⑤は15件）。

参考資料 評価項目の概要と比較 2

評価項目38項目を要約しました。平均点はS＝5～E＝0の換算値で、差は第2回から第1回を引いた値です。

職員としての資質

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	こどもの手本となる姿勢	3.06	2.94	-0.12
2	こどもにとって魅力ある人柄	2.35	2.88	+0.52
3	保護者との信頼と相談しやすさ	2.71	2.80	+0.09
4	職員間の信頼と相談しやすさ	2.82	3.07	+0.24
5	専門職としての誇りと熱意	3.35	3.25	-0.10
6	社会人としてのマナー	3.35	3.25	-0.10
7	保育所職員としての倫理観	2.88	3.00	+0.12

保護者支援

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	笑顔で安定した保護者対応	3.76	3.75	-0.01
2	共感と傾聴による相談対応	3.59	3.19	-0.40
3	こどものありのままの姿の共有	3.24	3.20	-0.04
4	家庭の個別事情に応じた支援	3.47	3.33	-0.14
5	園のルールの説明と意見の尊重	3.18	3.47	+0.29
6	専門性を生かした育児支援	2.94	2.94	-0.00
7	複雑な事情への管理職との相談	3.88	3.75	-0.13

行事

番号	評価項目の概要	第1回 平均点	第2回 平均点	差 (点)
1	行事の種類と回数の適切さ	2.53	2.94	+0.41
2	行事の計画と振り返りによる改善	2.69	3.06	+0.38
3	行事のねらいの理解	3.06	3.06	+0.00

有効回答数：第1回は各17件（行事②③は16件）。第2回は各16件（職員としての資質③④、保護者支援③④⑤は15件）。

集計資料：令和7年度職員自己評価の第1回・第2回回答。個人名・メールアドレス・自由記述の原文は掲載していません。